

旧耐震基準の木造住宅の除却における容易な耐震診断調査票

解説及び記入例

(1) 調査票の記入手順と解説

調査日時

調査を行った日時を記入してください。

調査員氏名

調査を行った者の氏名を記入してください。

I) 建物の概要

1. 建築物の所有者、2. 建築物の所在地、3. 階数をそれぞれ記入してください。

II) 前提条件の確認

以下2項目を確認して該当する場合はチェック欄にチェックを記入してください。

- ・木造住宅である
- ・昭和56年5月31日以前に新築の工事に着手した

※2項目のうち両方又はどちらか一方に該当しない場合は本診断の対象外となります。

<提出するもの>

以下の書類を、住宅除却補助制度の申請書類に添付してください。

- ・耐震診断調査票 p 1～p 3
- ・「Ⅲ) 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目」に該当する場合は、それが分かる写真

Ⅲ) 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目

各項目について敷地や建築物等の状況を確認して該当する場合はチェック欄にチェックを記入してください。あくまで目安になりますが、各項目の例示については以下の表をご参考ください。

箇所	項目	例
建物全体	全体又は一部に崩壊がある	<ul style="list-style-type: none"> ・建物全体が崩壊・落階している ・屋根や外壁の一部が脱落している ・柱が折れている ・外壁に亀裂や穴が生じている
	全体又は一部に変形がある	<ul style="list-style-type: none"> ・建物全体が傾いている※1 ・棟がうねっている ・軒先が垂れている ・柱や壁が傾いている ・床に起伏がある
地盤・基礎	地盤沈下が生じている	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の沈下や建物の沈下が見られる
	基礎がコンクリート以外（玉石、石積み、ブロック等）である	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎が玉石、石積み、ブロック、レンガ等である
	基礎がコンクリートであり、ひび割れや欠損が見られる	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎がひび割れている※2 ・基礎の一部が欠けている ・鉄筋の露出や鉄筋のさび汁が見られる
老朽・腐朽	柱、梁、壁、土台等の構造部に白蟻の被害がある	<ul style="list-style-type: none"> ・部材が食害されている（特に床下や小屋裏等の暗くて多湿な箇所を確認） ・白蟻の巣がある ・部材に虫がわいている
	柱、梁、壁、土台等の構造部に腐朽が見られる	<ul style="list-style-type: none"> ・部材が湿気等により腐っている ・部材にカビが生えている
	柱、梁、壁、土台等の構造部に損傷や欠損が見られる	<ul style="list-style-type: none"> ・部材に穴がある ・部材が欠けている ・部材に亀裂が見られる

※上記の項目において、該当する項目が1つ以上ある場合、倒壊の危険性があると判断されます。

※該当することを証明する写真の提出が必要です。

※1 傾いている場合について

傾斜については、ビー玉・ゴルフボール等を転がしてみても転がるようであれば、水平器を使用することで確認できます。

【傾いていると判断するもの】

- ・概ね勾配が1/60を超えるもの（水平器等で証明できない場合は判断できません）。

※2 基礎のひび割れについて

ここでいうひび割れとは、構造クラックであり、軽微なひび割れ（ヘアクラック）は含みません。

【構造クラック（ひび割れ）であると判断するもの】

- ・ひび割れの幅が0.3mm以上
- ・外周からひび割れが確認でき、床下からも基礎の内側（裏側）までひび割れが確認できる（外側から内側までひび割れが貫通している）。
- ・外周からは0.3mm未満のひび割れしか確認できないが、床下から基礎の内側（裏側）に0.3mm以上のひび割れが確認できる。
- ・時間とともに幅が大きくなる（長い期間で）。

IV) 壁の割合

※ 「Ⅲ）一見して倒壊の危険性があると判断できる項目」において1つ以上の該当がある場合は記入不要です。

※ 調査票（別紙）「IV）壁の割合 記入用紙」へもあわせて記入してください。記入方法は5～6ページの記入例をご参照ください。

①壁の長さの計測

住宅内外の壁の長さを計測してください。（2階建ての場合は1階のみ）。耐震診断では、特に、方向別の壁の長さが重要です。

壁を太線で記入し、それぞれの壁の長さをメートル単位としてそのわきに書き込んでください。窓・ふすま・障子・ドアなどの開口部分は記入不要です。

②壁の長さの計算（イ）

建物のX（横）方向、Y（縦）方向ごとに、壁の長さの合計を計算してください。その2つの値のうち小さい方の値を、イ欄“壁の長さ（m）”に記入してください。

③ 面積の計算（ロ）

平面図から、面積を㎡単位として求め、ロ欄“面積”に記入してください。

④ 単位面積あたりの壁の長さ（ハ）

ハ欄“イ/ロ”では“単位面積あたりの壁の長さ”を求めます。イ欄“壁の長さ”を、ロ欄“面積”で割った値を記入してください。

【ハ欄“イ/ロ” = イ欄“壁の長さ” ÷ ロ欄“面積”】

⑤ 必要壁長さ（ニ）

下の表から該当するものを選んで記入してください。

屋根の種類 \ 階数	平屋	2階建
軽い屋根 (鉄板葺・石綿板葺・スレート葺等)	0.20	0.52
重い屋根 (かや葺・瓦葺等)	0.27	0.59

⑥ 壁の割合（ホ）

ホ欄“ハ/ニ”では“壁の割合”を求めます。ハ欄“イ/ロ”を、ニ欄“必要壁長さ”で割った値を記入してください。

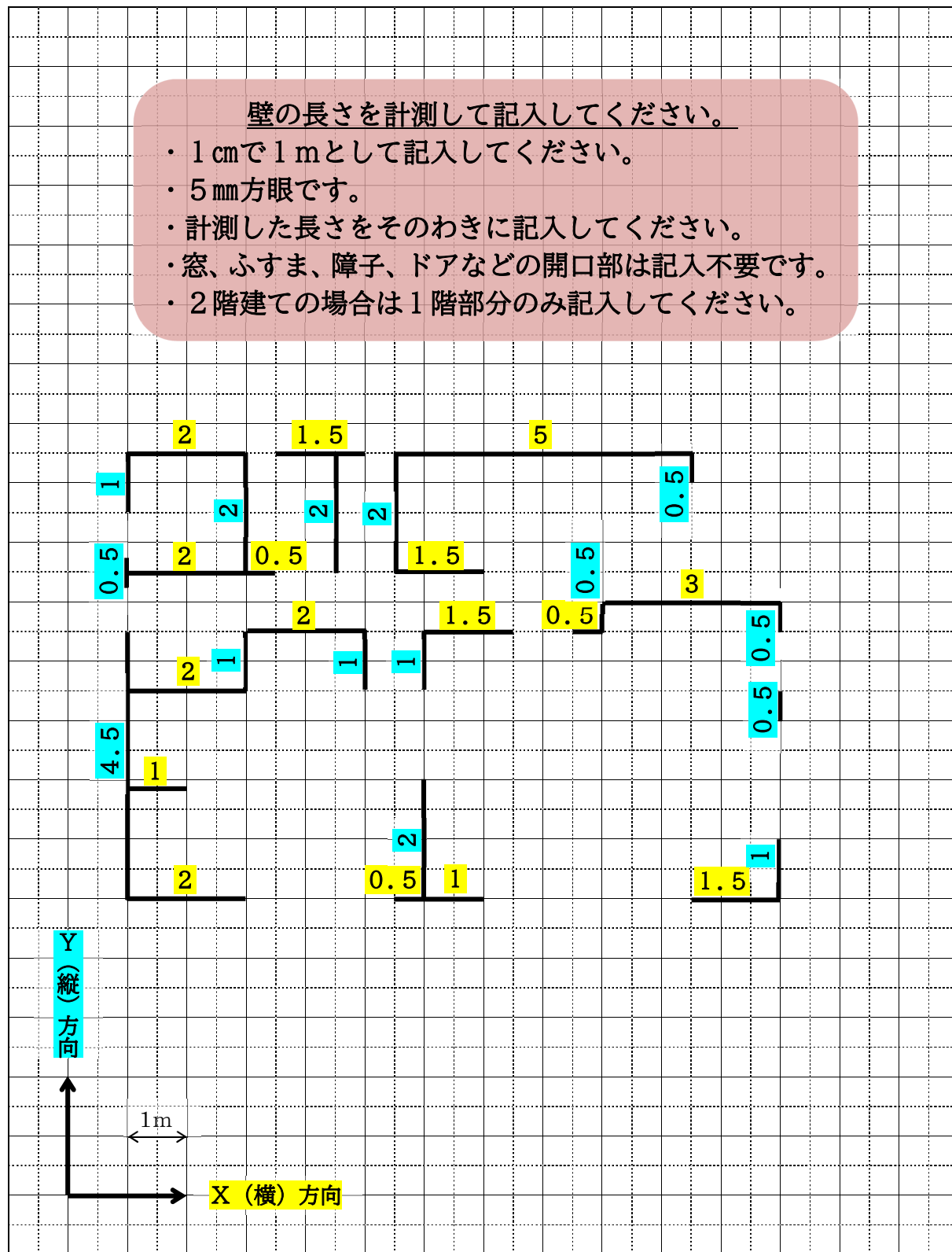
【ホ欄“壁の割合” = ハ欄“イ/ロ” ÷ ニ欄“必要壁長さ”】

IV) 壁の割合 記入用紙

壁の長さの計測

壁の長さを計測して記入してください。

- ・ 1 cmで 1 mとして記入してください。
- ・ 5 mm方眼です。
- ・ 計測した長さをそのわきに記入してください。
- ・ 窓、ふすま、障子、ドアなどの開口部は記入不要です。
- ・ 2階建ての場合は1階部分のみ記入してください。



(イ) 壁の長さの合計

① X (横) 方向

①
27.5

 m

② Y (縦) 方向

②
20

 m

①②のうち小さいほうを記入してください。

イ
20

 m

(ロ) 面積

ロ
75

 m²

(ハ) 単位面積あたりの壁の長さ

イ	÷	ロ	=	ハ
20		75		0.27

(ニ) 必要な壁の長さ

ニ
0.20

 m

下の表から該当するものを選んで記入してください。

階数	平家	2階建
屋根の種類		
軽い屋根 (鉄板葺・石綿板葺・スレート葺等)	0.20	0.52
重い屋根 (かや葺・瓦葺等)	0.27	0.59

(ホ) 壁の割合

ハ	÷	ニ	=	ホ
0.27		0.20		1.35